



# JEG ニュースレター 169号

www.jegschweiz.com

2019年2月16日発行

## 小さな証

最愛の伴侶であり同労者であったゲルスタ・ハンスウェリ前牧師を天に送った夫人が得られた揺るぎない確信とは。P2

## 日出ずる国から

2019年を迎えて母国から胸に去来する思いと抱負を語っていただきました。P4~5

## SLM19@イスラエル

今年のSLM19は聖書が書かれたイスラエルで催行されました。その中で2日間のエルサレム会議がありました。P3

## ユース・リトリート

チューリッヒ市郊外のグライフェン湖畔で開催されたユース・リトリートへの参加者の感想文を特集しました。P6~11



## 小さな祈り

永遠の始めからいらっしゃる、父なる神が私たちのためにご計画された、ご自分の御子の十字架による救いの業を信じる私たち異邦人をアブラハムの子孫と見なしてくださる、この恵みを真に深く理解出来るようにお助けください。

ですから、あなたがたの確信を投げ捨ててはいけません。その確信には大きな報いがあります。あなたがたが神のみこころを行って、約束のものを手に入れるために必要なのは、忍耐です。

ヘブル人への手紙 10:35-36

スイスJEG年間聖句

目標を目指して

ユース・リトリート特集

## ちいさな証

## 主人がイエス様と共にいる確信

ゲルスタ・ウェンディ

スイス日本語福音キリスト教会会員



アルツハイマー病で苦しんでいた主人が2018年11月9日に天に召されました。その日の悲しみと忙しさの中で、イエス様との静かなひと時を願い求めました。主を見上げながら、考えと気持ちが少しずつ落ち着き、急に心の中に喜びが湧いてきました。

主人が病気とその苦しみから解放されたことを感謝しました。そして主イエス様の十字架の死と復活によって主人が今、罪、地獄と悪魔の力から完全に自由になったことを何よりも喜びました。今も、主人がイエス様と一緒に天国にいるという確信は私の一番の慰めです。

でもこのような「確信」を本当に持つことができるでしょうか。もちろんそれを願うのは当然ですが、「確信がある」と言うのはずうずうしく聞こえて、高ぶることではないかと思われる人は多いと思います。救われるかどうか、だれもはっきりと知ることはできないではありませんかと。しかし聖書によると、神様は私たちがこの確信を持つことを願っておられます！（1ヨハネ5：10-13）

じゃ、どうしたら救いの確信が持てるのでしょうか。主人がとても良い人間だったからですか。それとも宣教師として努力して、一生神様に忠実に仕えようとしたからですか。違います！聖書によると、私たちの救いは私たちの努力や良い働きや祈りなどに基づきません。唯一の

土台は、イエス様の義と私たちのための完全な犠牲です。自分の不完全さ、自分の罪深さを知っていた主人は神様から救いという素晴らしいプレゼントをいただきました（ローマ6：23）。その後、感謝をもって、イエス様のために生きました。ですから生きていたとき、主人は天国を楽しみにすることが出来たのです。そして今、私たちは彼がイエス様とともにいる確信を持つことができるのです。

救いの確信をまだ持っていない方々が、是非、イエス様がしてくださったことを信じ、喜びで満たされますようにお祈りいたします。

まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです。ヨハネ 5:24

第1ヨハネの手紙 5:10-13



安藤寛之牧師（ミュンヘン日本語教会）と

神の御子を信じる者は、このあかしを自分の心の中に持っています。神を信じない者は、神を偽り者とするのです。神が御子について

あかしされたことを信じないからです。

そのあかしとは、神が私たちに永遠のいのちを与えられたということ、そしてこのいのちが御子のうちにあるということです。

御子を持つ者はいのちを持っており、神の御子を持たない者はいのちを持っていません。私が神の御子の名を信じているあなたがたに対してこれらのことを書いたのは、あなたがたが永遠のいのちを持っていることを、あなたがたによくわからせるためです。



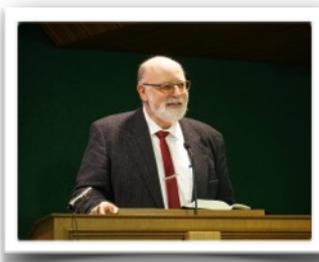
1、第2回 スイスJEG主催ユース・リトリート

1月4日から6日まで、チューリッヒ近郊グライフェン湖畔にて行われたスイスJEG主催の第2回ユース&ティーンリトリート2019は、祝福のうちに終了いたしました。スイス日本語福音キリスト教会に集う若者以外にもドイツ、フランス、フィンランド、日本から総勢30名（見学者やスタッフを入れると40名近くになりました。）の若者が参加されました。ヨゼフの生涯～神がヨゼフを神の器として用いられるまで～をテーマに加藤啄実師（フィンランドOVMCF）とマイヤー先生がメッセージを語っていただきました。



このニュースレターの6-11ページには参加者の証と感想文が特集されていますが、編集レイアウトは、デュッセルドルフ日本語キリスト教会から参加された佐藤雄一兄が担っていただきました。若い息吹と欧州の日本語教会に確かな希望を感じさせたウインターリトリートの開催に惜しまぬ支援をくださった兄弟姉妹に感謝いたします。

2、2019年からの新シリーズ



昨年8月から始まったシリーズ”福音と律法との対決・ガラテヤ人への手紙”は、2月10日のマイヤー牧師によるメッセージ”キリストにある自由”でもって8回を数えました。信仰と恵によって与えられた救いと律法からの自由から再び律法の呪縛に縛られようとするガラテヤのクリスチャンの姿は、2000年を経た今も律法的に陥りやすい教会と信者の信仰にむけて

問いを投げかけています。これらのメッセージはスイスJEGのHP：礼拝メッセージサイトで視聴していただけます。[スイスJEGのメッセージ-スイス日本語福音キリスト教会のホームページにようこそ!](#)

2019年からは、旧約時代の行事の意味とキリストにある預言の成就、さらに今日の教会生活がより豊かに導かれるための適用に富んだ”第1コリントの手紙”シリーズが計画されています。

3、スイスJEG第26回総会

1月27日（日）の13時半からスイスJEGの第26回教会総会が開催されました。総会に先立って会員に送付された活動報告、決算表、活動計画、予算表など諸資料をもとに審議が行われ、決算や予算案を含め全案件は承認されました。

役員は、前年に引き続き、原憲二兄（会長）、今村泰典兄が留任となりました。5年間、教会長老としてご尽力されたフォンプラント兄は辞任することになりました。5年間、会計担当の重責のかたわら、教会の霊的成長のためにも多くの時間とエネルギーを注がれた兄に深く感謝します。フォンプラント兄に替わり、11年間、日本で宣教活動に従事され、2016年に教会員となり、ユース活動ほか多くの働きを担ってこられたミュラー・トマス兄が役員に選出されました。

本年も役員会はマイヤー牧師を含めて4人体制となり、聖書にある長老として、新来会者や長期欠席者のケアを含め、霊的成長のための中心的な役割を役員は集中して果たすこととなります。また役員会によって選出された世話人と呼ばれる執事は、教会運営の実務的な働きを担うことになり、教会の礼拝や行事の催行にお働きいた

できます。いずれも時間と忍耐、なによりも上からの知恵と愛が求められる大切な働きです。

今年選ばれた世話人は次の通りです。世話人会会長：トムセン・ハンス兄、副会長・CS：トムセン千香子姉、受付：ヘス明美姉、トムセン・カレン姉、奏楽：原しのぶ姉、ヴァイランド千佳姉、ユース&ティーン：トムセン・チャーリー兄、今村葉子姉、会計：川本真由美姉、愛餐会：ミュラー・カリン姉。尊いご奉仕に感謝します。

4、SLIM19@イスラエルツアー

今年のSLIM(Servant Leaders in Ministry)カンファレンスは、1月31日から2月8日まで 聖書の舞台であるイスラエルで行われました。

今年のテーマは「神の恵みを見て喜ぶ」（使徒11:23）キリストの足跡を辿りつつ、その土地が持つメッセージに耳を澄ます時となりました。今回のツアーの特色として「エルサレム会議」と題し、日本やアジアからのツアーと合同で2日間のカンファレンスをもちました。イスラエル聖書大学の校長やメシアンニックジューの講師からの証言に驚きをもちつつ、主が今この時代になさっている大きな恵みを受け取る時となりました。



スイスJEGから2人の姉妹を送って頂き、私たちも大きな励ましを受けました。このツアーで受けた恵みを、派遣して下さった地域教会に持ち帰り、それぞれがサーバントとして仕えてくださることを願い、祈ります。

SLIMカンファレンス大会長 ミラノ賛美教会牧師 内村伸之

5、第36回ヨーロッパ・キリスト者の集い第2信発行

7月25日から28日までルーマニア西北部にある学術産業都市クルージュ・ナポカで開催される第36回ヨーロッパ・キリスト者の集い（トランシルバニア集会とフランクフルト日本語福音キリスト教会の共催）の第2信が2月2日に発信されました。

同時に、集い後に催されるルーマニア北部のマラムレシュ地方へのオブショナルツアーの概要も発表されました。2信を始め、集いに関する映像も含め最新情報は、オフィシャルサイトのヨーロッパ・キリスト者の集いの特設サイトでご覧いただけます。[第36回ヨーロッパ・キリスト者の集い特設サイト-ヨーロッパ・キリスト者の集いのオフィシャルサイト!](#) 申し込みは、3月1日から22日までですが、実行委員会は参加を決められたら早急にフライトの予約を勧めています。



マラムレシュにあるブルサナ修道院

6、世界各地からホットな情報が満載の月報/ニュースレター&メルマガが届いています!

オーニングャー宣教師、クッツ・プスキラ宣教師、フーサー香織・シモン宣教師、矢部昂宏宣教師からのRundbrief、フランクフルト日本語福音教会月報ひろば、工藤篤子メルマガ、井野葉由美メルマガ、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語キリスト教会月報、ケルン・ボン日本語キリスト教会月報、ルーマニア川井勝太郎宣教師の週報、ブリュッセル宣教報告、在欧日本人宣教、イザール通信、森ゆり空レタ配達人、”宣教の声”が届いています。お読みになりたい方は、松林までご連絡ください。なお、スイスJEG会員の兄姉は、HPでパスワードを入れて、いつでもお読みできるようにいたしました。

新しい年を迎えて

日出ずる国から

東京開拓に踏み出す年

ローゼンクランツ・クリスチャン&直美  
ジーザスコール福岡



私たちにとって、2019年度は東京開拓という大きな一歩を踏み出す信仰の年になります。子ども達も、志音は来月都立高校受験、安奈も新年度から中学3年へと邁進中です。

今ある福岡の教会も次のリーダーとなる夫婦の結婚式を3月に控えつつ、それぞれ宮崎、福岡、東京のチームで準備を進めていますが、想定外の事やチャレンジも多くハラハラドキドキの毎日です。神が始められた働きは神が全うしてください、ということは私たちの確信です！

皆様にはいつもお祈りに覚えていただき、またJEGからの良いニュースを聞くたびに励まされて感謝でいっぱいです。東京開拓を通して福音の扉がさらに開かれ、日本の多くの人々が神の国に入ることができるよう、ぜひ今年は何に祈りに覚えていただけたら幸いです。皆様の祝福を心より祈りつつ

救いを体験できる年に

クンツ・プリスキラ

茨城：筑西キリスト教会



私が2017年4月から奉仕している茨城県にある筑西キリスト教会での2018年のクリスマス会に多くの方々が教会に足を運んでくださったことを心から感謝しています。CS教師と子供たちとで有名な“Stille Nacht”（きよしの夜）の起源のお話を演劇しました。そのためにわざわざパイプオルガンを運んできました。。。いいえ、本物ではありません。24枚の紙に印刷し、張り合わせた写真です。

ちょうど200年前のことですが、1818年にオーストリアのオーベルンドルフ村のオルガンが壊れたために、J.MohrとF.Gruberはギター伴奏で歌える新しい歌を作りました。”きよしの夜”という賛美はその年の12月24日に初めて歌われました。本来の賛美の6節のテーマは“Jesus der Retter ist da”（救い主であるイエスが来られた）ということです。私たちの教会だけではなく、皆様の教会に来られた方々の心にこのメッセージが響きつづけるように願っています。

今年もイエスの救いをいろんな場面で経験することができるようにお祈りしましょう。

2019年は「変化」の年に

矢部晶宏 & 幸恵

OM宣教師



1月27日、長女理歩名（りあな:へブル語で神様が私に癒えてくださったとの意味）が生まれました。真「理」の中を、イエスさまの御「名」によって、祈りに癒えてくださる神さまと共に「歩

んでほしいなと思います。また、今回の出産で、『家族』の存在を改めて神さまに感謝しています。

2019年は、私たちにとって新しい家族が加わり、いよいよ海外へ出て行く「変化の年」となりそうです。5～6月に宣教トレーニング&海外生活の慣らしのため半年間ニュージーランドへ、その後数ヶ月日本に帰国した後、宣教地ヨーロッパ入りする予定です。

神さまの愛と福音を世界の人びとにも届けたいと思います。私たち家族は土の器ですが、その欠けやひびからも主の光が輝くことを信じ、イエスさまと人びとを愛しながら歩んでいきます。お祈りに覚えてくだされば、とても嬉しいです。

新しい年も皆さまがイエスさまの恵みをさらに体験され、祝福から祝福へと進まれますよう、私たちも皆さまのために心を込めてお祈りしています。

詩篇29:11 「主は ご自分の民に力をお与えになる。主は ご自分の民を平安をもって祝福される。」

主の恵みの年

大八木タビタ

川崎市宮前区



今年も主の恵みの年、また一年が始まりました。どんなことがあっても、主イエス様を見上げ、力と平安をいただいて歩いていけたらいいなと思います。

「いつも、主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい。」ピリピ4:4

主にある喜びと平安を消し去らせよう  
とすることがたくさんあります。  
でも、主ご自身が私たちのそばを離れま  
せん。主の御手に支えられて歩めば、  
平安と喜びが戻って来ます。

我が家では、勲は3月に小学校を卒業  
し、中学生になりました。献は今、高校  
受験で、来月の本番に向けて頑張ってい  
ます。夫は5月からまた部門が変わり、  
今は庶務課で働いています。  
私は家族の庶務担当です。(笑)

教会でも、できる範囲でお手伝いしてい  
ます。(会計、月一回の司会)  
写真は、母が秋に日本に来た時のもので  
す。また皆さんにお会いできる日を楽し  
みにしています。

## 集会の名称と場所が

### 変わります!

ノルウェー・ブリーネは  
森功・よし兄弟から



親愛なる主に在る兄妹姉妹の皆様



尊い主の御名を心  
から賛美致します!

2019年も明け  
て、すでにひと月にな  
ろうとしております。  
大変遅くなりましたが、  
去年も多くの教会、  
集会からクリスマスの  
御挨拶を

頂きまして有難うござい  
ました。あの様に、多  
くの群れと、今でも  
繋ぎ合わされています  
ことを覚え、励まされ  
感謝しております。

私達の集会は、去年50周年を迎え6月に  
記念集会を持ちました。私達が責任を持  
ちましてから今年で30年になります。い  
い節目の時でもありまして、今年から新  
たな形で集会を続けて参ります。

故安倍哲兄の時代から今まで西ノル  
ウェーのBryneという小さな町にある我  
が家(20年前に鑑別師の宿舎を私達が購  
入)で続けて参りましたが、今年からノ  
ルウェー第4の町Stavanger(スタヴァン  
ゲル)にあるミッションの建物の一室を  
借りて集会を持つことになりました。

去年までの集会は礼拝形式で集会を行  
って参りましたが、今年から聖書の学  
びを中心に、コアメンバーの信仰の  
成長を目指し、神の家族のメンバー  
としての自覚を再確認するための学  
びをして参ります。



また、集会の名称も「ブリーネ祈りの家集会」から「スタヴァンゲル日本語聖書集会」と改めてそこから再スタートして参ります。

この地方に住んでいる日本人は80人前後で多くはありませんが、その分多くの人と繋がりがありますので、学び会が拡大して行くことを願い、神様にお委ねして新たにスタート致します。

何卒、今まで通りヨーロッパの教会、集会の交わりの輪、祈りの輪の中に加えて頂きたく、よろしくお願い申し上げます。

尚、集会の名称変更と共に、住所、メールアドレスも確認の為に下にも書いておきます。又ミッションの場所も下に地図のリンクを貼り付けておきます。

ヨーロッパ各地から雪のニュースが入りますが、これから寒さの本番、皆様の健康が守られ、主の宣教のお働きが守られ祝されます様に、心から祈りしております。

スタヴァンゲル日本語聖書集会

代表 森功

連絡先 Pastellvegen 15

4344 Bryne Norway

Email [bryne.no.mori@gmail.com](mailto:bryne.no.mori@gmail.com)

電話 +47 51481636

mobil +47 90565371(Isao)

集会場所

Norwegian Lutheran Mission Salem

<https://goo.gl/maps/PSB3a5uJWdS2>

集会 毎月第一土曜日 13時から

## ユース・ティーンリトリート 2019

2019年1月4～6日（2泊3日間）、ユース・ティーンリトリートを開催しました。場所は Greifensee 近くの Cevi-Ferienhaus にて。多くの参加者が集まり、久しぶりに会う友や初めて会う仲間など、賑やかな雰囲気でした。金曜日の晩から雪が降り始め、翌朝には一面雪景色となりましたが、雪遊びを楽しむグループもおり皆、元気そうでした。今回のテーマは「ヨセフの生涯から学ぶ」、4回に分けて、たくみ先生とマイヤー先生より聖書のメッセージを頂きました。この素晴らしいリトリートを通して、一人一人が神様から恵みを受けました。ここで、証・感想文を紹介します。※文末の国名は、居住地・滞在先を表す。

## 神様からのプレゼント（リトリート） 後藤千晶

今回リトリートに初めて参加させていただきました。同年代のクリスチャンとの交わりは本当に恵まれました。スモールグループでの学び、みんなでしたお祈り、美味しいご飯を囲んで話した時間、みんなでやったゲーム、フリータイムで雪道を散歩したこと、みんなで歌った賛美。これらのことは皆、霊的な成長に繋がる大きな経験になりました。また主は、みんなの前で証を読む時間を与えて下さいました。伝えるきっかけを下さって本当に感謝です。たくみ先生やマイヤー先生のお話もとても分かりやすく、「ヨセフの生涯から学ぶ」というテーマのもと、当時の時代の背景とヨセフがどういう人物だったか、どのような環境に置かれていたのか、罪について、神様はヨセフにどのような御計画をなされたかなど、より丁寧に詳しく学ぶことができました。この世的な欲に惑わされそうになったときは、イエス様の十字架に逃げてしまおう！と思います。本当に罪深い、こんなわたしを愛してくださる神様の愛の深さを改めて感じられました。リ・トリートの文字通り、霊的な癒しをこのタイミングで与えてくださった天の御父様、そしてスタッフとしてサポートして下さった方々に感謝です！（フランスより）

## 次もまた楽しみ 安藤みずき

2019年1月4日から6日にかけて、2泊3日のリトリートがスイスのチューリヒの近くで行われました。ドイツ、フランス、フィンランド、スイスとあらゆる国から集まり、共に聖書を学び、沢山遊び、沢山食べ、楽しい時間を過ごしました。最近救われて洗礼を受けた姉妹の証をきいて、未信者の友達にも良い刺激だったと思います。牧師先生にヨセフの物語のメッセージを取り次いでいただき、その後のスモールグループの交わりも実り多いものとなりました。同世代の日本人クリスチャンと交わる少ない貴重な機会が与えられ、とても感謝です。私は去年オーストラリアへ留学に行っており、ヨーロッパの修養会に参加できなくて残念でしたが、みんなとまた仲良くなれてホッとしました。普段の生活から離れて集中して聖書を学び、交わりの時間が与えられてとても感謝でした。これからも信仰を持つ青年が増え、神様に用いられるよう祈りつつ、次の機会を楽しみにしております。

（ドイツより）



上：証し会（アキネ姉・チアキ姉） 下：集合写真

**イエス様と走り続けていく 28歳 森田衛**

皆さん！この間のスイスのユースキャンプでお世話になりましたまだまだ若い28歳野球小僧の森田衛です！今回のキャンプでは、スモールグループリーダー、朝の運動、フリータイムのご奉仕をさせて頂きました。グループのリーダーというのは実は初めてで、野球の試合に臨むかのごとく、気合い十分にそしてドキドキでスイスに乗り込みました！しかし、始まってみれば、喉を枯らすくらいはしゃぎ過ぎて子供のように遊び、リーダー感は出せずでしたー！それくらい良い時間良い場所で素晴らしい兄弟姉妹達と過ごせて楽しかったです！創世記37章から4回のセッションで特に神様から教えられた事は、キリストの愛の中にしっかり留まり続ける事と、試練の中でも、ヨセフのように静まって祈り求め続けていく事です。さらに、ヨセフがポティファルの妻から逃げたように、誘惑が来た時には逃げるのもまた勝利であり、日々聖書の御言葉を蓄える事の大切さも学びました。ヨセフのようにいつも神様と共に歩み、神様に信頼して信仰の道を走り続けたいと思います！「しかし、主はヨセフとともにおられ、彼に恵みを施し、監獄の長の心にかなうようにされた。」創世記39章21節（フランスより）



朝の運動

**ジョエル バイムラ**

リトリートで会った若者達が、あんなに遠いところから来たことを知って感銘を受けました。心優しい仲間と一緒に冷静になって神様のことを考え、同時に、ともに交わりを楽めることは凄いなと思いました。さらに、私にとって日本語を練習するよい機会ともなりました。（スイスより）

**新しい体験 カステリ アンジェリカ 由貴**

今年の三日間のスイス JEG ユース&ティーンリトリートに初めて参加させていただきました。聖書の学びですごくいい刺激をいただけましたし、自分の神様への思いを深く考え直せました。ほかの参加者は人見知りな私をすぐに輪の中に入れてくれて、まるでずっと前から仲間だったような感じでした。リトリートという形で個人で省察したり、みんなで楽しみながらイエス様のことをほめたたえるのはこんなに楽しいものだったとは… いい意味で衝撃的でした。たくみ先生とマイヤー先生、グループリーダーや料理担当のスタッフ、そして長く私の悩み相談に乗ってくれた皆さんにはとても感謝しています。貴重な体験を本当にありがとうございました。（スイスより）



フリータイム（散歩・Greifensee）

**心に残るリトリート ヨハナ トムセン**

グライフェンゼーでの日本語キリストキャンプ第2回目が祝福のうちに無事終わったことを神様に感謝しています。色々な新しい方に出会えたことも嬉しいです。今回のキャンプで心に残ったことは神様のみ言葉、皆さんとの深い楽しい交わりや、と真っ白な雪です。ヨセフの学びで一番印象的だったのは、神様はどんな人でも従う心を持っている人を色々な出来事を通して変えていき、近い関係を持ちたいと思っておられる方だということです。また近いうちに皆さんと交友交わりを持ちたいです！（スイスより）

2019年リトリート 高平優美香

去年にひき続き今年も参加できて主に感謝です！また今年も新たな出会いがいっぱいあり、とても楽しい時間でした！久しぶりにあった人たちとも会うことができているんな話ができすぎて嬉しかったです。今回のリトリートのメッセージの中「誘惑と主の働きの違い」のテーマがあって、自分は誘惑か主の働きのかわからないときすごく葛藤したりして、どうしたらいいかわからない時があったりします。今回学んだ事がそんな葛藤の中主とのコミュニケーションがどれくらい大切なのかを学びました。主とのコミュニケーションをとることができたらちゃんと主が助けてくれる。自分の性格じゃ誰かに頼ることがすごく苦手だった私はこの事を学んだあと自分の中にあつた壁が小さくなった感じがします。主にはいつでも頼っていいこと、いつでも声をかけてもいいこと。改めて主は自分の一番大事なお方だと感じました。(スイスより)

私の人生での大きな変化 佐藤雄一

私はドイツ(デュッセルドルフ)で生活を始めてから2年半が経ちますが、スイスに訪れるのは今回初の機会でした。リトリートの聖書の学びでは、「あらゆる誘惑に対してどう対処して信仰生活を送れば良いか。困難から信仰によって立ち上がる事」の教えが与えられました。私の人生の変化は、2014年にヨーロッパで聖書に出会い、神を知り、イエス・キリストを救い主として受け入れてから。多くのクリスチャンと繋がり霊的に交わる中で。そうでなければ、「私は古いままの自分を抱えつつ自分の人生に意味が無い。」と思いつつ生きていただろうと思います。今、念願の海外生活をしていますが、健康や仕事の問題に遭い、精神だけで無く霊的にも窮地に陥りました。しかし、神は私の中で働いて下さり、解決の道も用意して下さいます。神の御心を全て知る事は出来ませんが、これからも神に祈り求めつつ、完全に委ねた生き方をしていきたいです。(ドイツより)



聖書の学び (賛美・メッセージ)



フリータイム (交わり・会話の時)

スイスリトリート 渡邊航

私は初めてスイス・リトリートに参加しました。ヨーロッパ各国からたくさんの若い兄弟姉妹が集い非常に祝福された会でした。ヨーロッパにはたくさんの日本語教会があって各教会にそれぞれ青年がいますが、ほとんどの場合、教会に集う青年の数は2~5名ほどです。同じ教会に同世代がいないことで若い兄弟姉妹との交わりがなかなか持てない・そのことが原因で教会から離れてしまうという共通の課題があることを知りました。そういう意味でヨーロッパの30名以上の同世代のクリスチャン知り合えたことは非常に感謝です。これを機に若者の交わりの輪を広げられればと思います。(ドイツより)



フリータイム (ゲーム)

共に賛美 チャーリー トムセン

今年もスイスでヨーロッパ各地のユースとティーンズが集まってキャンプを持てたこと神様に感謝します。また、色々と準備の手伝いをしてくれた人、料理してくれた人、そして参加者一人一人に感謝します！先生たちからヨセフの生涯について学びながら素敵な交わりの時間を持てました。僕にとって一番印象に残ったことは、ヨーロッパにこんなに日本人、日本語をしゃべるクリスチャンがいることでした。絆を深め、共に神様を賛美できて、とてもよかったです。これからも祈りあいながら連絡を取れたらいいなと思っています。来年のキャンプにもぜひ参加したいです！（スイスより）



上：賛美チーム（練習中） 右：フリータイム（楽しいひと時）

祝福された交わり カレン トムセン

今年のヨセフの成長をテーマにしたユースリトリートに参加出来たことがすごく感謝でした。みんなと楽しい交わりを持ち、その中でもいろいろな人が他の人たちに今持っている悩みや問題を打ち明けて、それを相手が聞いてあげたり同感したりしているのが嬉しかったです。知り合ってから数時間しか経ってないのに、信頼を持ってそこまで言える関係が出来るこのクリスチャンの交わりの大切さとすごさを新たに感じました。その中で私も何かを手放せた気がしました。先生達からの話の中で、この世界には数多くの若い溺愛ヨセフや嫉妬心を持つ兄達がいる事に気づきました。周りを見る事や周りだけでなく自分の大切さを見る事もバランスよくしていないと人間関係の間に衝突が生まれるのだなと思いました。この思いを忘れずに、このバランスを自分の関係の中に生かしていきたいと思います。これは自分の力だけでは無理なので、神様の助けを祈りつつ歩みたいです。（スイスより）

神様は必要を備えて下さる方 安味尚香

初めて参加させて頂いた今回のスイスのリトリートで鳥獣がましくも司会進行という奉仕をさせて頂きました。最初は私にできることがあればという思いから神様に与えられたものだと思います、参加者というよりはスタッフのようなものかなと考え、祈りながら準備をしてきましたが、リトリート当日から次第にプログラムのことを考え始め上手くタイムテーブルを回さないとという思いの方が強くなり、神様に祈り委ねることができなくなっていました。しかし神様はこの3日間で私に語りかけ、私が為すのではなく私の中にいる聖霊が働き神様が為して下さるということ、上手く回そうと思う必要はなくそのままの私を用いて下さること、その時に相応しいメンバーが与えられていることなど本当に沢山の事に気付かせて下さいました。全くスタッフではなく、私がリトリートされる方だったのです。本当に神様はその時に私に必要な環境をご存知で、更にその必要な人や物を備えて下さる方です。日々の生活に追われているとそのことを忘れてしまっていますが、静まって祈り神様と1対1の時間を過ごし、神様から与えられている事を思い返すことができました。このリトリートでお世話になったメンバーや先生、スタッフの方々、そして全てをご存知で備えて下さった神様に感謝します。しかし主に信頼する者には、恵が、その人を取り囲む。（詩篇 31 篇 10 節一部抜粋）（フランスより）



ユースキャンプに参加して ヘス明美

初めてスタッフとして参加させていただいたユースキャンプ。調理担当として、買い出しからお手伝いさせていただきました。今まで参加者として、メッセージが語られる御言葉を通し、主から与えられる恵みが多かった様に思いますが、奉仕者の立場で参加してみると、また違う角度からキャンプを見る事が出来ました。参加者一人一人がこのリトリートを通して恵まれるようにと心から祈っていましたが、御言葉や交わり、奉仕を通して、多くの祝福と気付きを与えられたのは私でした。主のお働きとお導きを十分に感じた三日間となりました。神様の大いなる栄光を褒め称えと共に、と一緒に調理担当でお世話になった葉子さんと千香子さんに心から感謝致します。参加させていただき、どうもありがとうございました。(スイスより)



協力して食後の後片付け



食事の準備・奉仕



食事の恵み・良い交わりの時

主の恵みに感謝して 今村葉子

ユース&ティーンリトリート 2019 が祝福のうちに終了いたしました。スイス日本語福音キリスト教会に集う若者以外にもドイツ、フランス、フィンランド、日本から総勢 30 名(見学者やスタッフを入れると 40 名近くになりました。)の若者が参加されました。ヨゼフの生涯～神がヨゼフを神の器として用いられるまで～をテーマに加藤啄実師(フィンランド OVMCF) とマイヤー先生がメッセージを語ってくださいました。参加者全員のモチベーションは非常に高く、一人一人が熱心にメッセージを聴いておられ、深い分かち合いの時を過ごされました。若者の美しい賛美を聞きながら、また主を仰ぎ見るキラキラ光る美しい彼らの眼差しを見ながらご奉仕させていただき、なんとも恵み深い時をいただきました。また 40 人近くの食事作りは初めてのことで、どうなることか心配と緊張で重圧を感じていましたが、広い、大きなキッチンで料理を始めると、会場ではユースが賛美練習を始め、彼らの賛美を聞くや否や、なんとも言えない喜びと力が湧きました。これは奉仕者の特権といえますか、奉仕しなければ味わえない恵みなのだと思います。このリトリートのために約 40 名近くの食材の買い出しから料理まで、お手伝いくださった、ヘス明美姉、トムセン千香子姉、寝袋を貸し出してくださった方々、仕事の合間に差し入れを持って励ましにきてくださったスイス JEG の姉妹、またキャンプ施設との連絡のみならず、たくさん見えないサポートをくださったトマス&カリン・ミュラー姉妹、そして経済的なサポートとお祈りをして下さったスイス JEG の皆様、心より感謝いたします。また、全てのことの上に神様のご配慮を思い、主に感謝し、主の御名を心から誉めたたえます。来年も同じ時期(1月3日～5日)にリトリートを予定しています。神様の恵みを繋げて行きたいと願っています。(スイスより)

リトリートに参加して 松木浩美

お手伝いスタッフとして参加予定のリトリート前に膝を怪我し歩行困難になり行けるか悩んでおりました。AHさんに相談した所、恵みを受ける前の試練だと思うから絶対に来てね！空港内は車椅子もアレンジできるから！と背中を押され無事に松葉杖での参加。困難な中でも、主は皆さんとの豊かな交わりの時を与えて下さいます。楽しい内容は他の参加者が書くと思いますが私が一番驚いたことは、土曜日の夜からお手伝いに来たW夫妻との再会！Yさんとお誕生日が一緒というW兄を遠くから拝見し話してみると、あれ？共通点。私は昔スイスで仕事をしていて、T兄の車に乗せてもらい数人でベルンからウスターの教会に通っていました。当時ご一緒し、それからもずっと私のことを祈ってくれたこと。私の名前までしっかり覚えていてくれて涙がでるほど嬉しかった！ハレルヤというのはこういうことなんだなぁと神様は本当に素晴らしいと思わされました。このように繋がれた神の御業はすごい！としか言いようがありません。ご奉仕くださった皆様、一緒に参加できたみんなそして神様に心からありがとうを言いたいです！

2020年のデュッセルドルフの夏の集いにも是非参加して下さい！（ドイツより）



お誕生日おめでとうございます！



右：フリータイム（卓球・雪遊び）



次回リトリートの開催予定日は、  
2020年1月3日（金）～5（日）です。  
どんなテーマになるでしょうか？  
楽しみです！是非、皆さんのアイデアや意見を募集します。